

概要版

人とまちが
元気に輝き続ける



仙台市スポーツ推進計画 2022-2031

令和4年4月

計画策定の趣旨

本市では、平成24(2012)年に「仙台市スポーツ推進計画2012～2021」(以下、「前計画」という)を策定し、「人とまちの元気をはぐくむ『スポーツシティ仙台』」の基本理念のもと、「する」「みる」「ささえる」「ひろがる」の4つの柱を基本目標に据え、各施策に取り組んできました。

前計画期間における本市スポーツの歩みは、東日本大震災からの復興とともにありました。「震災から復興する仙台を発信すること」などを柱に掲げ、1万人規模の市民参加型大会としてリニューアルした仙台国際ハーフマラソン大会の開催を皮切りに、本市に本拠地を置くプロスポーツチームの躍進、本市ゆかりのアスリートのオリンピックでの活躍など、スポーツは市民一人ひとりの元気や輝き、まちの賑わいを取り戻すための大きな原動力・推進力となりました。

また、文化スポーツの分野における観光部門との連携強化に向け、平成28(2016)年4月に文化観光局を新設するとともに、平成26年に設立した「スポーツコミッションせんだい」を活用し、大規模スポーツイベントの開催・誘致の取組みを進めるなど、交流人口の拡大による賑わいあふれるまちづくりを目指してきました。

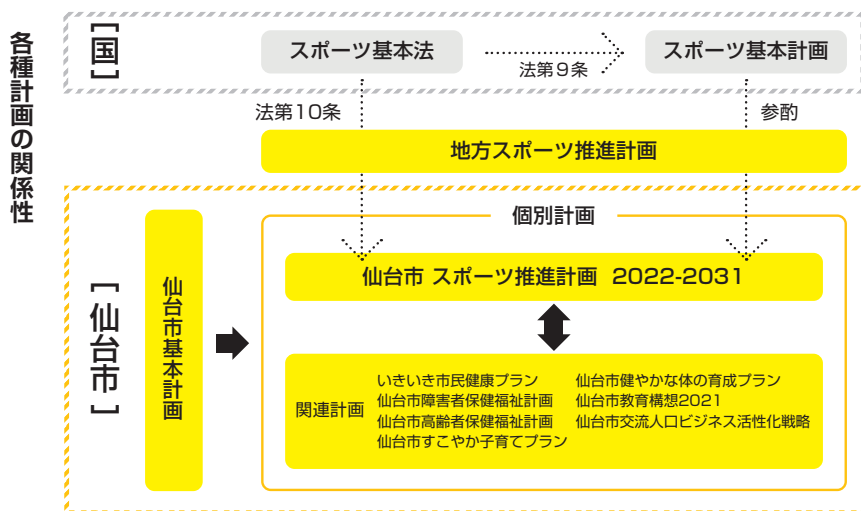
これからの本市スポーツ施策の推進においては、社会経済情勢や多様化するライフスタイル、新型コロナウイルス感染症対策による「新しい生活様式」に合わせた対応等、スポーツを取り巻く環境・状況の変化に応じた柔軟な取組みが求められます。このような状況を踏まえ、今後10年間の本市スポーツ施策について総合的な推進を図るための基本的な計画として、「仙台市スポーツ推進計画2022-2031」を策定します。

本市スポーツ推進計画の位置づけ

本計画は、スポーツ基本法第10条における「地方スポーツ推進計画」として位置付け、仙台市基本計画を上位計画とした、本市におけるスポーツ推進の基本となる計画です。

計画の期間

本計画は、令和4(2022)年度から令和13(2031)年度までの10年間を見通したものととして策定しますが、具体的に取り組む施策や数値目標等については、令和4(2022)年度から令和8(2026)年度までの5年間の内容とします。なお、本計画は、計画の進捗状況、社会情勢、国の政策動向等の変化に応じて、中間年(令和8年度)に必要な見直しを実施する予定です。



本市スポーツ推進計画におけるスポーツの範囲

「スポーツ」はルールに基づいて記録や勝敗を競うことを目的とした競技スポーツを中心に、学校の体育や運動部活動、また自分の限界に挑戦していくような、どこかストイックなイメージが先行し、難しいものと考えられることが少なくありません。

「スポーツ」という言葉が示す範囲は本来とても広いもので、近年ではより広義に捉えられており、競技スポーツに限るものではありません。例えば、ウォーキングやジョギングなど健康の保持・増進を目的として継続的に行う身体的活動もスポーツといえます。さらには、エレベーターを使わず意識的に階段で上り下りすることや、皿洗いの家事などを行いながらつま先立ちしてエクササイズすることなど、日常生活における意識的・継続的な身体活動もスポーツに含まれます。

元々、スポーツという言葉は「気晴らしや遊び、楽しみ、休養」といった要素を指すラテン語が語源とされ、国の第2期スポーツ基本計画においても、「身体を動かすという人間の本源的な欲求に応え、精神的充足をもたらすもの」と定義しており、犬の散歩やガーデニング、レクリエーション等、気晴らしや楽しみを目的として行う身体活動も「スポーツ」の範囲といえます。

本計画では、野球、サッカー等の競技種目から、レクリエーション活動、健康・美容のための散歩や体操等の軽い運動、徒歩や自転車による通勤や買い物等の日常生活における活動まで、**意識的・継続的に行う様々な身体活動のことを「スポーツ」として幅広く捉え**、これまでスポーツに縁のなかった方にも気軽に親しんでいただくことを目指します。



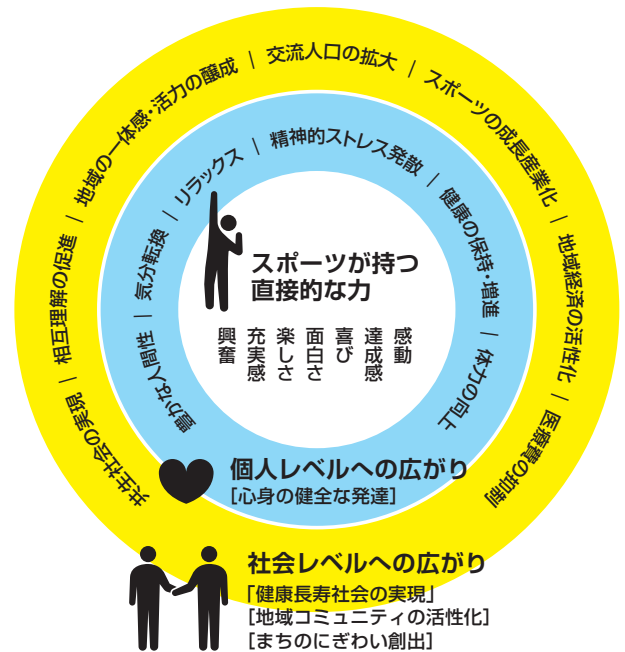
スポーツの力

スポーツはそのものが楽しくて面白いものです。スポーツをすることによる達成感や満足感、みることによる興奮や感動など、スポーツが持つ直接的な力を味わうことが、スポーツに関わる最もシンプルな動機となり得ます。

しかし、スポーツの持つ力は、これらの前向きな感情を引き出す瞬間的な効果だけに留まりません。スポーツをすることにより、体力向上や健康の保持増進などの身体的な効能と、リラックスや気分転換などの精神的な効能の両面に作用し、心身の健全な発達という個人レベルへの広がり期待されます。

また、スポーツによる個人の健康増進は健康長寿社会の実現につながり、地域におけるスポーツ活動は人と人とのつながりを生み、地域コミュニティの活性化にもつながります。さらにスポーツを通じて生まれた人々の活力は経済活動の活性化へと波及し、まちの賑わいを創出するといった社会レベルにまで広がることが期待されます。

このようにスポーツが持つ力は、個人レベルへの作用のみならず社会的課題や地域課題の解決に資するものです。私たちは東日本大震災からの復興の歩みの中で、スポーツの持つ大きな力が地域の一体感や活力を生み出す原動力・推進力となってきたことを経験しています。これらはまさに前計画から本市の特徴的な柱であった「ひろがる」スポーツとして目指してきたものです。



前計画での取組み

前計画では、「する」「みる」「ささえる」「ひろがる」を基本目標に、様々な取組みを展開してきました。



する

- 仙台国際ハーフマラソン大会をはじめとする市民参加型イベントの開催
- マイタウンスポーツデーの開催
- 学区民体育振興会などの地域スポーツ団体の活動支援
- 元気はつらつチャレンジカードや仙台スポーツツワイライト・パスによるスポーツ活動支援など



みる

- 大規模スポーツイベントの開催・誘致(全日本大学女子駅伝、実業団女子駅伝(クイーンズ駅伝)など)
- 本市に本拠地を置くプロスポーツ球団への地域密着支援 など



ささえる

- 本市に本拠地を置くプロスポーツ球団への地域密着支援 など
- スポーツボランティアの養成講習会・マッチング企画の実施
- せんだいスポーツボランティアステーションの運営



ひろがる

- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会などを契機としたスポーツ機運の醸成
- スポーツコミッションせんだいを活用した大規模スポーツイベントの開催・誘致

数値目標の達成状況

計画を着実に推進するための目安として、平成24(2012)年の前計画策定時に定め、平成29(2017)年の見直しにおいて再設定した6つの具体的な数値目標の達成状況は、以下のとおりです。

15歳以上の市民のうち、40.0%が週1回以上運動やスポーツを行うことを目指します。

週1回以上運動やスポーツを行う人の割合	36.4% (H22)	31.1% (H28)	<u>39.3%</u> (R2実績) 40.0% (目標)
---------------------	-------------	-------------	--------------------------------

15歳以上の市民のうち、35.0%が市や地域のスポーツ団体などが主催するスポーツ行事等に参加することを目指します。

市や地域のスポーツ団体などが主催するスポーツ行事等に参加する人の割合	33.8% (H22)	22.8% (H28)	<u>18.7%</u> (R2実績) 35.0% (目標)
------------------------------------	-------------	-------------	--------------------------------

15歳以上の市民のうち、50.0%が年1回以上競技場でスポーツ観戦することを目指します。

年1回以上競技場でスポーツ観戦する人の割合	47.2% (H22)	44.6% (H28)	<u>40.3%</u> (R2実績) 50.0% (目標)
-----------------------	-------------	-------------	--------------------------------

15歳以上の市民のうち、8.0%がスポーツボランティアなどの協力活動を経験できる環境づくりを目指します。

スポーツボランティアなどの協力活動を行う人の割合	5.5% (H22)	2.9% (H28)	<u>2.9%</u> (R2実績) 8.0% (目標)
--------------------------	------------	------------	------------------------------

仙台市立小学校の児童(5年生)のうち、65.0%が週3回以上運動やスポーツを行うことを目指します。

週3回以上運動やスポーツを行う児童の割合(学校の体育の授業を除く)	48.0% (H22)	64.6% (H28)	<u>52.1%</u> (R2実績) 65.0% (目標)
-----------------------------------	-------------	-------------	--------------------------------

全国・国際規模のスポーツ大会を年8回以上開催することを目指します。

全国・国際規模のスポーツ大会の開催数	年5回 (H22)	年5回 (H28)	<u>年14回</u> (R1実績) 年8回 (目標)
--------------------	-----------	-----------	-----------------------------

本市のスポーツ推進に向けた課題

- 子ども・高齢者・障害者・女性等、誰もが、いつでも、どこでも、自分に合ったスポーツが楽しめる環境づくり
- 地域におけるスポーツ活動機会の充実と担い手支援
- 誰もが観戦したくなる・観戦しやすいスポーツ環境の整備
- 子どもが遊びやスポーツを楽しむ機会の充実と体力・運動能力向上の推進
- スポーツボランティアの育成・活動支援
- 大規模スポーツ大会の開催誘致、スポーツと観光資源などを掛け合わせた本市ならではのスポーツツーリズムの推進

目指す姿

人とまちが元気に輝き続ける -Sports City SENDAI-

スポーツに親しみ、楽しむことには、体を動かすといった爽快感だけではなく、心身の健康を育むとともに、スポーツを通じて人と人がつながることで地域の一体感が醸成されるなど、人やまちを元気に明るくする力があります。

また、プロスポーツやトップアスリートのパフォーマンス、大規模なスポーツイベントは、感動や興奮、熱狂を生み出すなど、多くの人々を惹きつける魅力的なコンテンツであり、まちに活力や賑わいをもたらします。

こうしたスポーツの力は、東日本大震災からの復興においても、仙台の人とまちに大きな希望や勇気をもたらしてきました。

社会を取り巻く環境が大きく変化する中であっても、仙台の人とまちが、未来へ向けて元気に輝き続けるために、スポーツの持つ力を最大限に活かすことで、「子どもから高齢者まで全ての市民が楽しく元気に暮らせるまち」、「人と人がつながり、ともに支え合う、健康で心豊かな暮らしを育むまち」、「人が集い、賑わう、活力のあるまち」の実現を目指します。

基本方針

以下のとおり3つの基本方針を掲げ「人とまちが元気に輝き続ける -Sports City SENDAI-」の実現に向けて取り組んでいきます。

なお、本計画に基づき展開する各施策は、SDGsの考え方を意識して進めます。

基本方針 1



アクティブ
ライフスタイルの推進



スポーツで一人ひとりが
“元気になる”

基本方針 2



地域コミュニティ
活性化につながる
スポーツ機会の充実



スポーツで人や地域と
“つながる”

基本方針 3



スポーツを核とした
にぎわいの創出



スポーツで仙台に人が
“集う”

スポーツでひろがる

アクティブライフスタイル

本市では、健康づくりや美容等を目的として、日常生活の中で意識的・継続的に体を動かすことが習慣化された生活様式を「アクティブライフスタイル」として積極的に推進します。例えば、WHOは、「運動はどのような形でもよく、仕事や移動の最中、レジャー活動や遊びの中、さらにはガーデニングや掃除といった日常生活の中でも実施可能である」としています。通勤や買い物の手段を自家用車から自転車に変える、犬の散歩がてらジョギングを行う、電車やバスを一駅手前で降りて歩く、エレベーターをやめて階段を使用する等、意識的かつアクティブに体を動かしましょう！

基本方針 1



アクティブライフスタイルの推進

スポーツで一人ひとりが“元気になる”

スポーツを「する」「みる」「ささえる」といった多様な形で楽しみ、喜びを得ることは、心身の健康増進や生きがいに満ちた豊かな生活の実現につながります。市民一人ひとりが自分に合った形で意識的に体を動かすアクティブライフスタイルの推進により、毎日の生活がより楽しく充実したものになるよう、それぞれのライフスタイル、スポーツへの関心や取組みの度合いに応じた施策を展開します。

基本方針 2



地域コミュニティ活性化につながる スポーツ機会の充実

スポーツで人や地域と“つながる”

スポーツは、様々な立場や状況の人々が楽しみや喜びを分かち合い感動を共有するなど、ともに活動し、つながりを感じながら楽しめるものです。スポーツの力による新たな交流の創出や、ともに支え合う地域社会の実現に向け、身近なところで気軽に参加しやすいスポーツ機会の充実を図る等、スポーツを通じた地域内交流やコミュニティの活性化を目指します。

基本方針 3



スポーツを核としたにぎわいの創出

スポーツで仙台に人が“集う”

プロスポーツやトップアスリートのパフォーマンス、大規模なスポーツイベントは、感動や興奮、熱狂を生み出すなど、多くの人々を惹きつける魅力的なコンテンツであり、人とまちに大きな希望や勇気、元気をもたらします。本市ならではの多様な資源を効果的に活用した大規模スポーツ大会等の誘致・開催や、スポーツツーリズムの推進など、スポーツを通じて本市のブランド力をさらに高めることで、交流人口の拡大や、まちの賑わい創出を目指します。




SDGsを意識した施策の推進

SDGsとは、平成27(2015)年9月に国連サミットで採択された2030年までの持続可能な開発目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない(leave no one behind)ことを誓っています。

また、同アジェンダにおいて、「スポーツもまた、持続可能な開発における重要な鍵となるものである。」と述べられており、本計画においても「スポーツの力」を意識しながら、SDGsの主旨を踏まえ、持続可能な未来へ向けて、各施策の推進に取り組んでいきます。



SDGs アイコン(出典：国際連合)

目指す姿	基本方針	基本施策
人とまちが元気に輝き続ける -Sports City SENDAI-	<div style="text-align: center;">  </div> <p>1 アクティブ ライフスタイルの 推進</p>	<p>重点！施策</p> <p>1-1 スポーツに親しむ意欲の喚起</p> <hr/> <p>重点！施策</p> <p>1-2 子どものスポーツ推進</p> <hr/> <p>重点！施策</p> <p>1-3 高齢者や障害者がスポーツに参画しやすい環境づくりの推進</p> <hr/> <p>1-4 女性のスポーツ参加促進</p> <hr/> <p>1-5 ビジネスパーソンへのスポーツ推進</p> <hr/> <p>1-6 身近にスポーツができる場所・機会の充実</p> <hr/> <p>1-7 スポーツに関わる人材の育成と活動の場の確保</p> <hr/> <p>1-8 トップアスリート等との連携・支援</p>
	<div style="text-align: center;">  </div> <p>2 地域コミュニティ 活性化につながる スポーツ機会の充実</p>	<p>2-1 地域スポーツ活動への興味・関心の喚起</p> <hr/> <p>重点！施策</p> <p>2-2 地域スポーツ活動の機会創出</p> <hr/> <p>2-3 地域スポーツ活動の担い手支援</p>
	<div style="text-align: center;">  </div> <p>3 スポーツを核とした にぎわいの創出</p>	<p>3-1 本市スポーツイベント等への興味・関心の喚起</p> <hr/> <p>重点！施策</p> <p>3-2 スポーツツーリズムの推進</p> <hr/> <p>3-3 スポーツを魅せる環境づくり</p> <hr/> <p>3-4 新たなスポーツ産業等との連携</p> <hr/> <p>3-5 スポーツボランティアの育成・支援</p>

施策の内容

- ① スポーツの楽しみ方や効果等の情報発信
- ② スポーツをするきっかけづくり
- ③ 誰もが気軽に参加できるスポーツイベントの開催

- ① 親子で体を動かすきっかけづくり
- ② 子どもが遊ぶ・スポーツを体験する機会の創出
- ③ 子どもの健康な体づくりと体力・運動能力向上の推進

- ④ 食育の推進
- ⑤ 学校体育の充実
- ⑥ 運動部活動の充実
- ⑦ 競技活動支援

- ① 高齢者のスポーツ活動支援
- ② 障害の有無にかかわらず、誰でも楽しめるインクルーシブスポーツの普及・促進
- ③ 障害者スポーツの普及促進・活動支援
- ④ スポーツ施設のユニバーサルデザイン化等の推進

- ① 女性のライフステージやライフスタイルに合わせたスポーツメニューの提案
- ② 女性のスポーツ参加をサポートする環境づくり
- ③ 親子で体を動かすことができるイベントの開催
- ④ 女性の継続的なスポーツ実施に向けた支援

- ① 気軽にスポーツに取り組める環境づくりに向けたプロモーション活動の実施
- ② ビジネスパーソンへのスポーツ施設利用促進
- ③ ビジネスパーソンへのスポーツ活動機会の充実
- ④ 親子で体を動かすことができるイベントの開催【再掲】

- ① スポーツ施設やスポーツイベント等に関する情報発信
- ② 市民ニーズに応じた施設サービスの充実
- ③ 施設機能の維持・向上

- ④ 広告収入等を活用したスポーツ施設の充実
- ⑤ 身近なところで体を動かせる空間づくり

- ① スポーツ指導者等の養成・資質向上
- ② アスリートや地域スポーツ指導者等を効果的に活用する仕組みの検討
- ③ スポーツ活動に貢献した人の表彰

- ① プロ・トップスポーツチームやアスリート、企業、大学等と連携する仕組みの創出
- ② 本市ゆかりのアスリートが活躍する場の創出
- ③ アスリートの競技活動支援
- ④ 優秀な成績を収めたアスリートの表彰

- ① 地域スポーツ団体の活動紹介やスポーツイベント等の情報発信
- ② プロ・トップスポーツチームや学生等と連携したスポーツ情報・魅力の発信

- ① プロ・トップスポーツチームやアスリート、企業、大学等との連携による地域スポーツ活動の機会創出
- ② 市民参加型の多様なスポーツ・レクリエーション大会やイベントの開催
- ③ 地域スポーツ・レクリエーション活動のイベント開催支援

- ① 地域スポーツ団体の活動支援
- ② 地域スポーツ活動に貢献した人の表彰
- ③ 地域スポーツ団体の活動のあり方に関する検討

- ① 本市のスポーツ大会やイベント等の情報発信
- ② 本市ゆかりのアスリートやプロ・トップスポーツチームとの連携・協働による応援機運の醸成

- ① スポーツコミッションせんだいと一体となった大規模スポーツイベントの誘致・開催
- ② プロ・トップスポーツチームとの連携による誘客促進
- ③ アウトドアアクティビティの活用

- ④ アーバンスポーツの振興
- ⑤ 本市スポーツツーリズムのブランディング化に向けた調査・検討
- ⑥ スポーツコミッションせんだいの機能強化

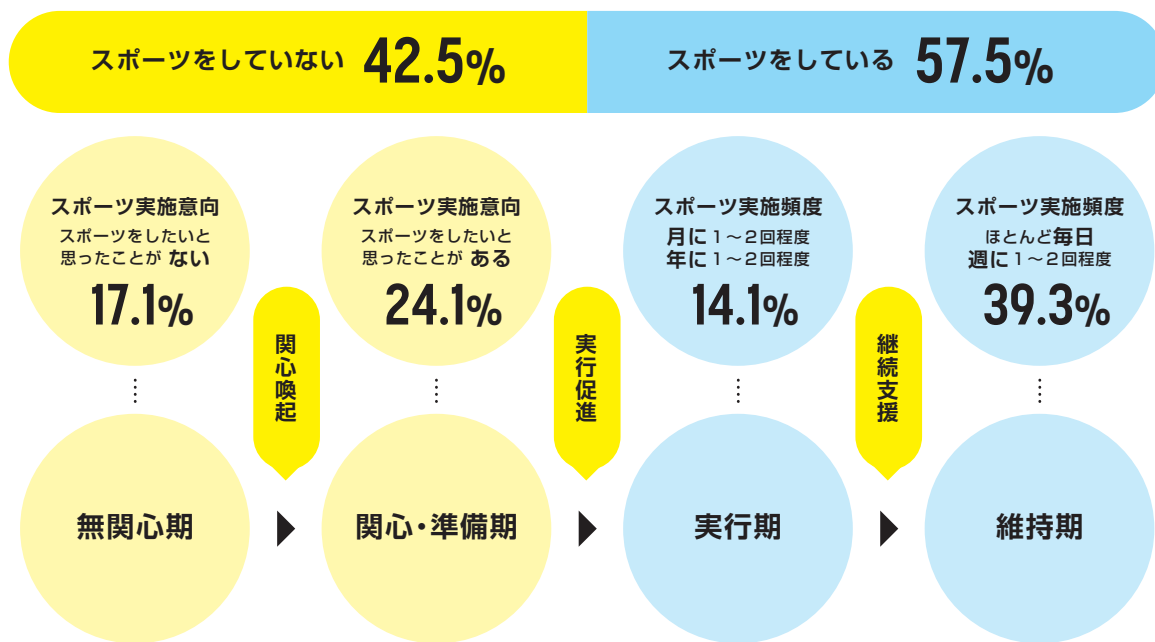
- ① 様々なスポーツ競技の紹介
- ② 誰もが観戦しやすくなる・観戦しやすいスポーツ環境の整備
- ③ スポーツレガシーの保存・活用

- ① スポーツにおけるデジタル技術の活用やeスポーツ等新たなスポーツ産業との連携に関する検討
- ② 医学と連携したスポーツ障害の予防、スポーツ医科学を活用した健康づくり・体力づくりの推進

- ① スポーツボランティア活動への関心喚起
- ② スポーツボランティアの養成
- ③ スポーツボランティアの活動機会の創出

3つの基本方針に基づくスポーツ施策を、「する」「みる」「ささえる」の観点から整理するとともに、市民意識調査の結果を踏まえて、スポーツに対する関心や取組みの度合いに応じた効果的な施策を展開していきます。

スポーツに対する関心の度合いに応じた施策の展開 (アクティブライフスタイルの推進の場合の例)



※「その他」「無回答」は含まないため合計しても100%にならない

出典：令和2年度仙台市スポーツに関する意識調査

施策の展開にあたっては、関係部局間の連携を図り、スポーツを取り巻く情勢の変化にも柔軟に対応しながら、効果的に事業を推進していきます。

成果指標・目標値

本計画における目指す姿の達成度合いを図る計画全体の成果指標として、「週1回以上スポーツを行う15歳以上の市民の割合」70%を目指すものとします。

その他、重点施策等の推進による個別の成果についても以下のとおり定めます。

なお、目標値は、計画中間年(令和8年度)の状況に応じて、必要な見直しを行います。

	成果指標	現状値(R2)	目標値(R8)
総合	週1回以上スポーツを行う15歳以上の市民の割合	39.3% ▶	70%
個別	1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上、1年以上実施している15歳以上の市民の割合	- ▶	50%
	週3回以上運動やスポーツを行う仙台市立小学校の児童(5年生)の割合(学校の体育の授業を除く)	52.1% ▶	65%
	元気はつらつチャレンジカードの50回達成者数	896人 ▶	1,800人
	障害者スポーツについて、「する」「みる」「ささえる」のいずれかの活動を行う15歳以上の市民の割合	- ▶	20%
	市や地域のスポーツ団体などが主催するスポーツ行事等に参加する15歳以上の市民の割合	18.7% ▶	35%
	年1回以上市内の競技場等で直接スポーツ観戦する15歳以上の市民の割合	40.3% ▶	50%
	スポーツボランティア活動を行う15歳以上の市民の割合	2.9% ▶	8%

本計画の施策や取組みを着実に推進していくため、年度ごとに現状把握・評価を行います。

また、中間年(令和8年度)に必要な見直しを実施する予定です。

計画に基づく取組みの実施状況については、仙台市スポーツ推進審議会に報告します。

Sports City SENDAI

仙台市スポーツ推進計画2022-2031 概要版

令和4年4月

編集・発行

仙台市文化観光局文化スポーツ部

スポーツ振興課

〒980-8671

仙台市青葉区国分町三丁目7番1号

TEL:022-214-8889